



いずみ野



<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/izumino/>

MSIブックレンジャーの装飾

あ A(阿久和小) い I(いずみ野小)・愛・合い

～多様性を理解し合う力を育む～

校長 齋藤 敦子

9月20日(水)、「いずみ野小学校 ありがとう集会」では、4年ぶりに全校児童が体育館に集合しました。閉校プロジェクト実行委員(6年生)の計画のもと、校歌を歌う場面では心のこもった歌声が響き、いずみ野小学校へのありがとうの気持ちが体育館にあふれました。そして、終わりの言葉(5年生代表)では、来年度、新しいいずみ野小学校の最高学年になる決意に、大きな拍手が湧きました。その一節をご紹介します。

ぼくたちは、来年度、新しいいずみ野小学校の最高学年になります。最高学年としてふさわしい行動をし、新しいいずみ野小学校を盛り上げていきます。そして、阿久和小学校の友だちと一緒に、誰もが安心・安全に、さらに楽しく過ごせる学校にしていきます。

5年 A.Y.

今年度はコロナ禍で減少したコミュニケーションを取り戻すためにも、たてわり活動(なかよし班)の活動や阿久和小学校との同学年交流、オーストラリアのバーチップ校との交流も充実させています。なかよし班で行う活動では、張り切って運営する6年生、楽しんで参加する下学年に和やかな関係性ができ、リーダーシップやフォローアップも育ってきています。年齢や性別、国籍が異なる友だちと交流することで、優しい言葉で多様性を理解し合う力につながっていきます。

10月は実りの秋を迎える生産活動(稲刈り、いもほり、冬野菜づくり)、運動会などの活動や行事では、子どもの主体性と表現力を育てるために実行委員など、子どもたちが中心になって活動できるよう計画しています。当日は保護者の皆様、地域の皆様のお力を借りながら、ともに見守り、支援していきます。

4年生は上郷宿泊体験学習を終え、帰校式では出発式のときよりもさらに聞き方がすばらしく、2日間での体験が大きな成長につながりました。週明けに行った振り返りの時間では、上郷で学んだ「自分のよさ」「友だちのよさ」「上郷のよさ」を思い思いに出し合い、一人ひとりが成長を実感していました。4年生、一人ひとりがみんなちがってみんないい、多様性を認め合う力を育みました。

前期もあと一週間となり、令和5年度も折り返し地点にたどり着きました。子どもたち一人ひとりが前期の自分の成長を振り返り、後期はさらに多様性を認め合う力、互いに学び続けていく力を育んでいけるよう、全教職員で支援してまいります。

～ 誰一人 取り残さない学びの機会を ～

横浜市では、やむを得ない事情で一定期間教室で授業が受けられない児童が、別室(本校では多目的室等)や自宅等で学習できるように、「横浜どこでもスタディ」という取組があります。担任や児童支援専任(清水悦子)にご相談ください。お子さんの事情に応じて学ぶ方法を考えていきたいと思います。教室に登校できない児童も、家庭や諸機関と連携して、一緒に考え支えてまいります。(例:学習支援教材の活用、オンラインでの朝の会、ロイロノートによる資料配付、学習ドリル等)